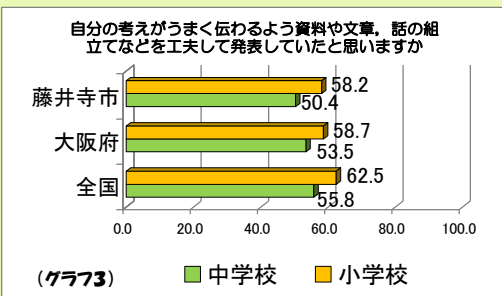
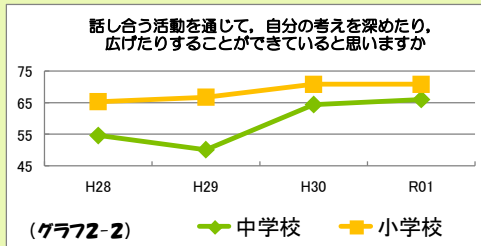
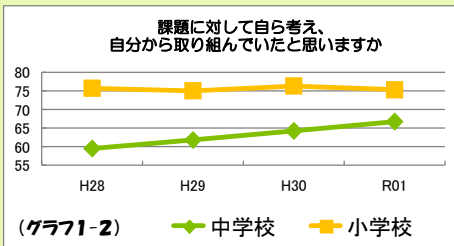
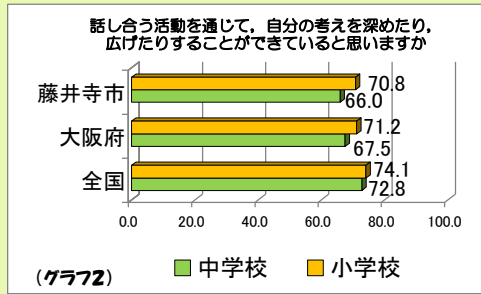
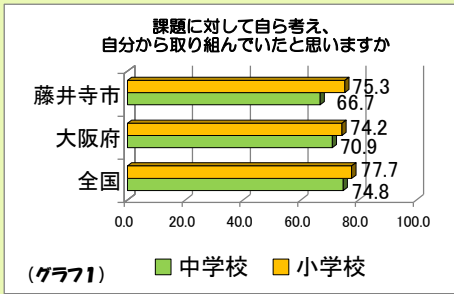


2. 『平成31年度(令和元年度)全国学力・学習状況調査』 質問紙調査の結果

(1) 学習編

☆学習への取り組み方について

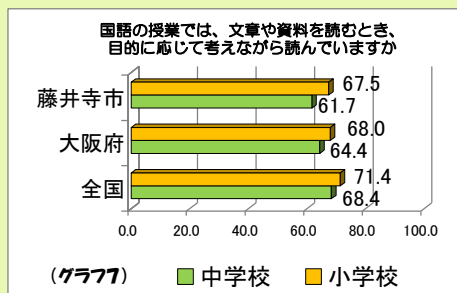
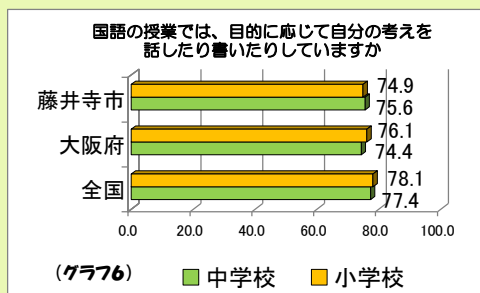
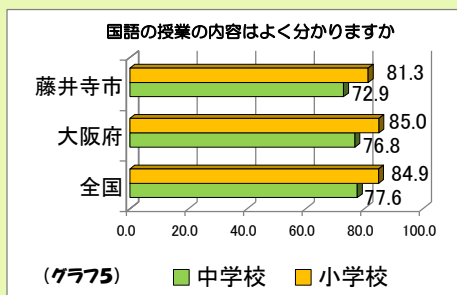
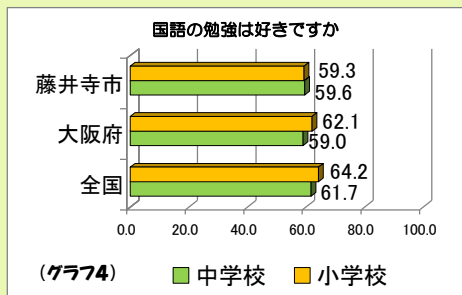
※グラフについて
上段：小学校の結果
下段：中学校の結果
を表しています。

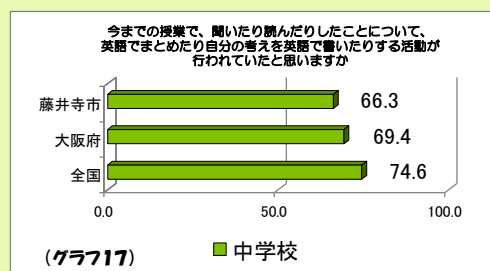
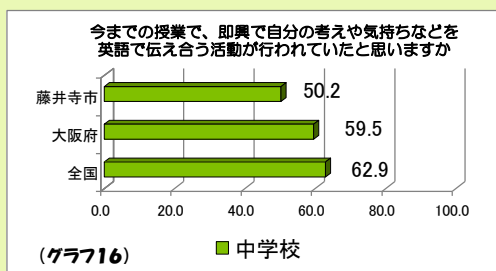
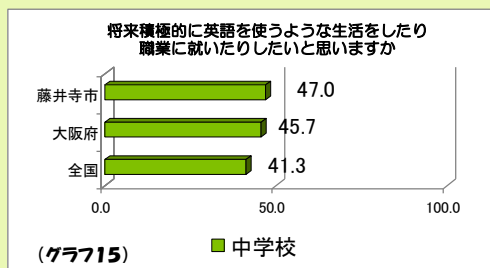
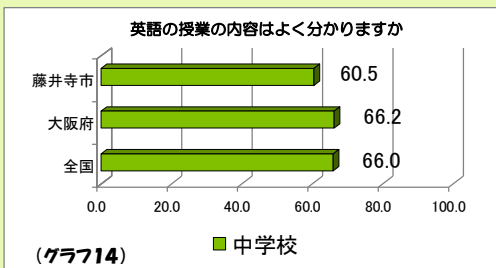
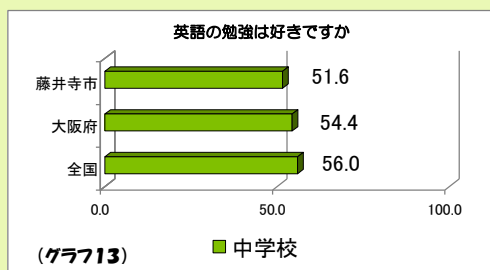
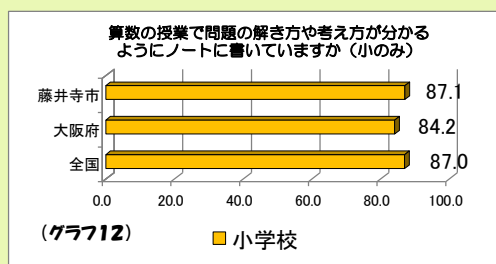
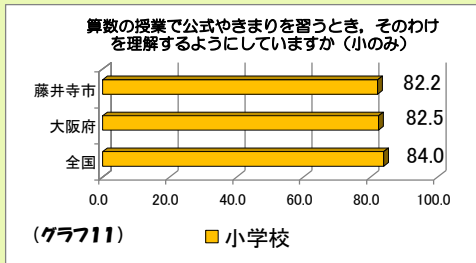
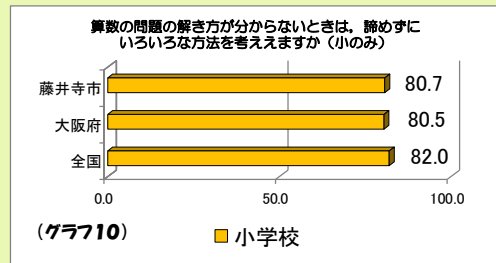
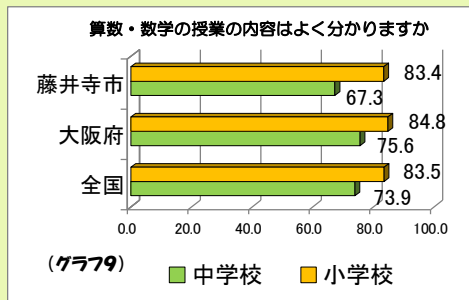
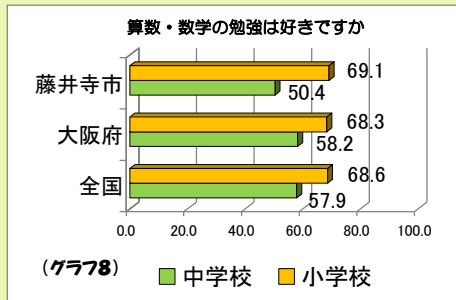


各校において「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を進める中で、年々「課題に対して主体的に取り組んでいる(グラフ1-2)」「話し合いを通じて自分の考えを深めている(グラフ2-2)」と答える児童生徒が、特に中学校では増加傾向にあり、府や全国との差が小さくなっています。

しかし、授業の中でその話し合いが「何のための話し合いなのか」ということを、児童生徒自身がよく理解していること、また自分の考えを効果的にアウトプットする活動を積極的に取り入れることが、今後のさらなる授業改善における課題です。

☆各教科について





「その教科が好き」「よく分かる」と答えた児童生徒の割合は、府や全国と比べてやや低い結果でした(グラフ4・5、8・9、13・14)。学力の定着を図る上で何より重要な基本事項であり、児童生徒による主体的な授業の展開を進める上で、工夫改善していく必要があります。

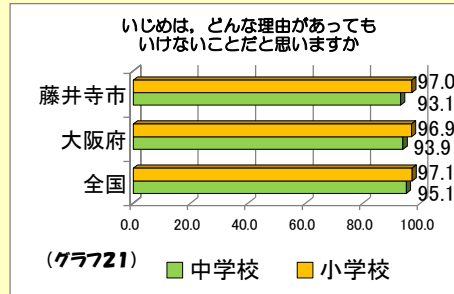
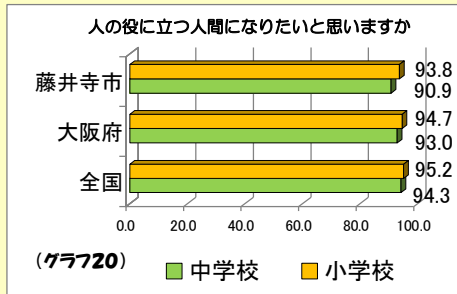
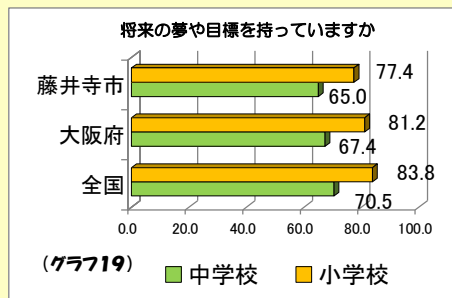
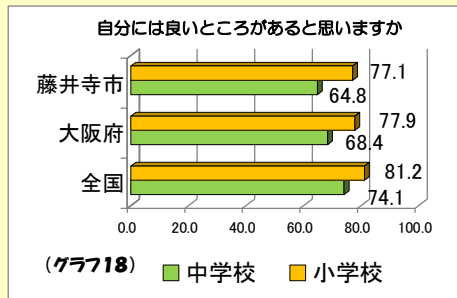
国語科では、依然「目的に応じて考えながら読んでいる」と答える児童生徒の割合が、特に中学校において府や全国に比べ低い結果でした(グラフ7)。

一方、小学校の算数科では、「授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いています」と答えた児童の割合が全国よりも高い結果でした(グラフ12)。本市では特に、記述式の問題について、正答率の低さや無回答率の高さが課題となっていますが、今回の算数の結果から、日々の授業における取組の積み重ねによる一定の効果が見られました。

中学校の英語科は今回初めての調査でした。「将来積極的に英語を使うような生活をしたり、職業に就いたりしたい」と答えた生徒の割合は全国よりも高く、英語への関心の高さが伺えます(グラフ15)。しかし、授業で自分の考えや気持ちを伝え合う活動や、見聞きしたことについて自分の考えを英語で書く活動が行われていたと答える生徒の割合は低く(グラフ16・17)、小学校からの外国語活動や外国語科との連携も含めて、学力の定着につながる効果的な授業展開が今後の課題であると考えます。

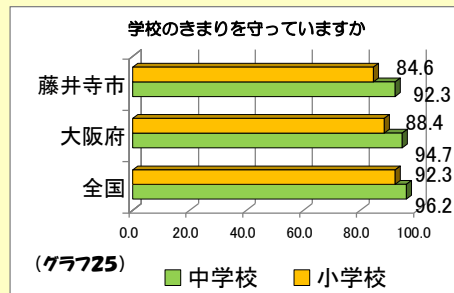
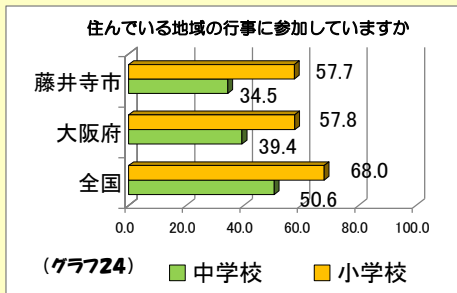
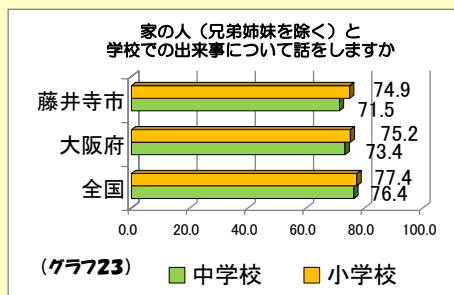
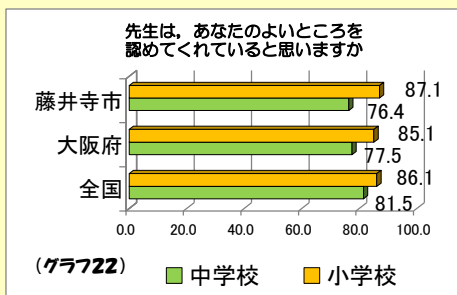
(2) 生活編

☆学力の基盤となる意識に関する事から学習・生活習慣について



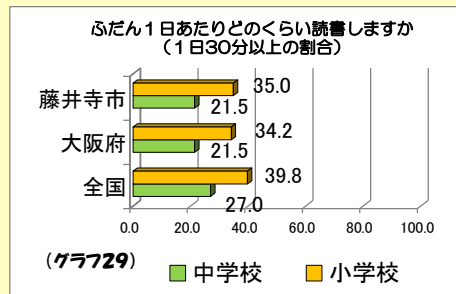
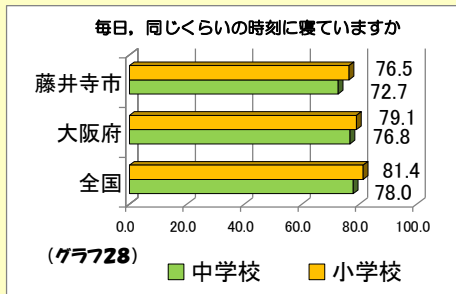
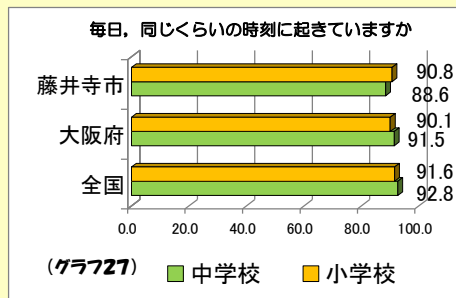
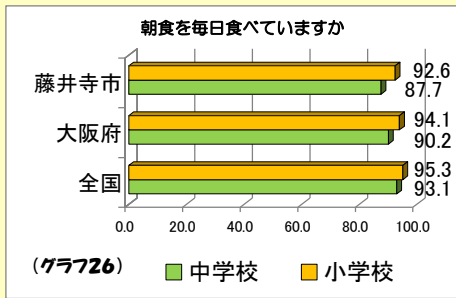
「人の役に立つ人間になりたい」と答えた児童生徒の割合は高い水準を維持しています(グラフ20)。児童生徒のこの思いが実現できる生活環境、学習環境を整えることが大切です。

また、いかなる理由があっても「いじめ」は許されるものではありません。「いじめはいけないことである」と答えた児童生徒の割合は高いものの(グラフ21)、今以上に、道徳の時間をはじめ、全ての教育活動を通じて「いじめ」を許さない心を育むこと、児童生徒が安心して過ごせる環境づくりが大切です。



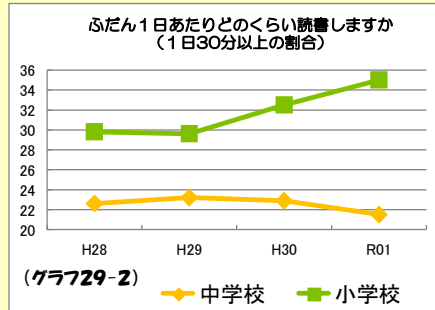
「先生はあなたのよいところを認めてくれている」と答えた児童生徒の割合は高く、特に小学校では全国よりも高い結果となりました(グラフ22)。自分は認められているという安心感は、学力定着の基礎となり、チャレンジする力や、周りへの思いやりの心につながります。地域や周りの人とのつながりの中で、自分の新たな一面を発見するチャンスが生まれることもあります。

「学校のきまりを守っている」と答えた児童生徒の割合が、特に小学校において府や全国よりも低い結果となりました(グラフ25)。落ち着いて学習できる教室環境を整えるとともに、自分のことだけでなく、周りのことも考えて行動できているか、自分自身を見つめる機会が持てるようなゆったりとした時間も大切です。

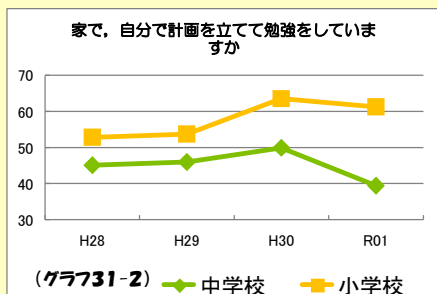
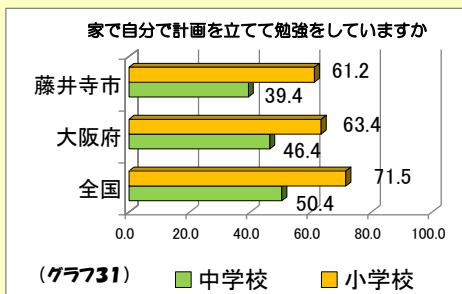
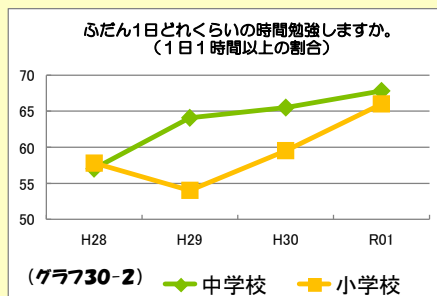
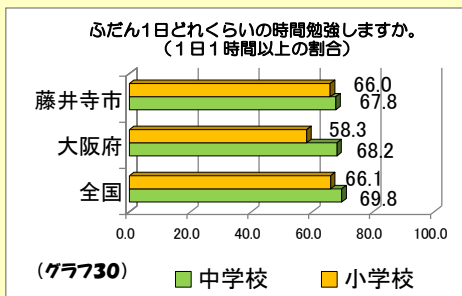


「朝食を食べている」と答えた児童生徒の割合は、依然府や全国と比べて低い結果でした(グラフ26)。1日のエネルギー源となる朝食をしっかり摂ること、規則正しい生活習慣を安定させることが大切です。

読書については、府や全国と比べるとまだまだ割合は低いですが、各校の取組の成果もあり、特に小学校では年々増加傾向にあります(グラフ29、29-2)。児童生徒の言語能力を高めるためにも、読書活動はとて大きな役割を果たします。



☆家庭学習について



家庭学習については、府や全国と比べるとまだまだ割合は低いですが(グラフ30・31)、小中学校ともに家庭学習の時間は増加傾向にあります(グラフ30-2)。しかし、「自分で計画を立てて勉強している」と答えた児童生徒の割合は増減が不安定で、今後の課題です(グラフ31-2)。

家庭学習の手引き等を活用できるよう、授業では自主学習につながるような授業展開を工夫すること、家庭では自分の学習方法が見つかるような家庭学習の環境を整えること、それらが一体となることで、家庭学習の定着につながります。

子どもを伸ばす5つの約束

- ★ **ふ**とした「学び」のきっかけを大切に！
- ★ **じ**しんが持てるような声かけを！
- ★ **い**そがずゆっくり話を聞いて！
- ★ **で**きた！の喜びをいっしょに味わって！
- ★ **Love** our CHILDREN！